

資料紹介：ドイツ射撃団の構造と活動

スウェン・ホルスト

Abstract

Marksman's clubs in Germany have a long tradition and play an important role in the social life of the northern and western parts of Germany. During the Medieval Ages, many towns had to find ways to defend themselves. For this reason associations and fraternities were founded. Only wealthy citizens could afford to buy a rifle and to be member of the town's marksmen. Accompanying the military exercises, festivities and festive processions were held. In catholic areas the marksmen's fraternities are closely connected to the churches. The military significance lessened over the course of the centuries, but the festivities were an important part of the lifecycle. In the 19th century many associations and clubs, like chorus clubs and shooting clubs were founded. In the times of National Socialism the shooting clubs were used for military education. Today the shooting sport attracts young people, but still the traditional festivities are an important part of the German tradition.

In this report the marksmen's fraternity of the city of Geseke in Westphalia is introduced as an example of a traditional shooting club still holding up old traditions and preserving the connection to the catholic church. This introduction of the regulations is thought as a first step for the comparison with other shooting clubs and marksmen associations in former times.

ドイツ人の社会生活にとって協会・クラブ (Verein) は重要な役割を占めている¹。

中世の終わりに、宗教的な同胞団の傍らに世俗自助団体、特に射撃協会、が生まれた。啓蒙主義の時代に新しい種類の協会が創設された。親族、近所という伝統的なつながりだけでは、もはや十分ではなくなっていた。都市では、教育協会や読書クラブが設立された。

主な協会設立の大きな動きは19世紀前半に始まった。多くの町では、最初に合唱団が設立された。その後体操協会が生まれた。両方の協会は、リベラルな運動と国民運動の重要な担い手であった。三月革命の失敗後、リベラルな思想は低下して、国民の政治的統合の思想が重視された。当時は、ドイツは政治的に統一されていなかった。合唱協会や体操協会、射撃協会はこの統一の先駆者として自分達を評価した。1871年にドイツ帝国設立によって市民協会の政治的使命を終えた。しかし、地元の文化施設としての協会はその重要性を保持した。歴史協会や美化クラブ、ハイキングクラブ、生命の改革クラブの新しいタイプの協会が創立された。1860年

1 スウェン・ホルスト「ドイツにおける“Verein”(団体・クラブ)の発展と意義について」愛知県立大学外国語学部『紀要』第35号、2003年。

代頃以来、市民団体と対立した労働者は、自分たちの合唱団や教育協会、スポーツ協会を設立し始めた。形状は類似していたが、中身は部分的に異なっていた。第二次世界大戦後、ほとんどの協会は政治的に中立な立場をとった。今日では、多くの協会が「余暇社会」のためのサービス提供団体となって、会員の仲間意識はやや薄れてきた²。

その中でも射撃団 (Schützenverein) は大きな勢力を持っている。特にライン下流地方からウェストファーレン地方を経て、中部ドイツまでの射撃団はプライベートな社会生活で最も重要な役割を果たしている³。もともと起源は自衛団として射撃団が発達した。自衛団としての役割を終えても、市民の軍事演習と社交の中核として繁栄してきた。現在では、軍事演習の側面がなくなり、スポーツの側面が強調されている。地域によっては、射撃団が開催する射撃祭⁴が最大の行事のときもある。軍事・スポーツの側面と社交の側面を持っている射撃協会の歴史と活動に対する批判的な意見もある⁵が、射撃団は社交の場の提供あるいは非公式的なネットワーク作り、地方のアイデンティティ創生を通して地方の社会生活に欠かせない重要な役割を果たす。このように重要な存在であるため、射撃団の構造と活動をより詳しく探ることに意義がある。その構造と活動を明確化したら、他の分野の協会・クラブもよりよく理解することが可能であり、ドイツの社会の重要な部分を明確化することもできる。

射撃団は必ずと言ってもいいほど、領主が認可した会則によって組織化されてきた。射撃団の様子はこの会則に反映する。時代とともに射撃団が領主・国家の要求に沿って変化してきた。現在、ドイツでは協会・クラブは協会法 (Vereinsrecht) の枠内で活動している⁶。その協会法に合わせて、設立に必要な7人の設立会員が「協会法」に適應した会則を定める。このような条件を充たしたら、該当の地方裁判所の「協会目録」(Vereinsregister) に登録され、「e.V.」「登録された協会」として課税対象外とされ、社会的信頼を得て活動できる。登録する義務がないけれども、上に述べたメリットを考慮して、伝統的な協会でも非課税対策をとって、法律に対応し、会則の改正を余儀なくされた。このように会則は社会の変化を反映するので、協会の会則を調べる価値がある。

すべての協会は会則を必要とする。協会の創設の際にこの会則を決定する。会則の項目には、まず必ず含まなければならないもの、つぎに含んでも良いもの、最後に、あとから追加的に含むことができるものがある。ドイツ民法第57条によると、「協会目録」へ登録の意思を表明した協会の会則には協会の目的、協会名、協会の所在地を明記し、協会の登録希望意思表示が含ま

2 Bausinger, Hermann: Typisch deutsch, München, 2009⁵, p. 68-69.

3 Erich, Oswald; Beit, Richard: Wörterbuch der deutschen Volkskunde, Stuttgart 1974³, p. 722. R.v. デュルメン『近世の文化と日常生活 2』鳥影社1995年、p.191-192。田中洋子「労働者文化と協会の形成」若尾祐司他『ドイツ文化史入門』昭和堂2011年、p.173。

4 Schützenfest を「射手祭り」と訳したほうが良いが、射撃祭の表現が定着したので、引き続き使っている。

5 スウェン・ホルスト「射撃祭の評価——過去と現在——」福岡女子大学文学部紀要『文芸と思想』第75号2011年。

6 Bundesministerium der Justiz: Leitfaden zum Vereinsrecht, Berlin 2013, http://www.bmj.de/SharedDocs/Downloads/DE/broschueren/DE/Leitfaden_Vereinsrecht.pdf, 閲覧2013.10.8.

れることが必須である。ドイツ民法第58条によると、登録団体の会則は次の規定を含んだほうが好ましい。

- 協会会員の入会と退会について（入会手続き、入会意思表示の形式）
- 会費出納義務（誰がどの会費を支払うべきであるかが、記載されているほうが好ましい。会費の金額を会則以外の協会規定に定めるほうが好ましい。ただし会則の会費決定権を持つ機関を指定するほうが好ましい。）
- 執行部の任命、執行部の構成員（法的な代表者を明記しなければならない。）
- 総会の招集条件と召集方法と議決の認定

この論文のなかでは、ゲーセケ市（Geseke）の射撃団をとりあげる。ゲーセケ市はウェストファーレン地方の中規模の人口2万人の長い歴史がある都市である。ウェストファーレン地方は射撃文化の中心地の一つである。ゲーセケ市はケルン大司教配下のウェストファーレン公国の境に位置したので歴史的に10世紀に市壁が作られ、13世紀にその城塞が強化され、町を守る射撃団も設立された。この射撃団は市民⁷の集結に大きな役割を持ち、同じく市民の集結を図った教会と密接な関係を保った。20世紀に世俗化するドイツの社会で教会の役割が後退しているが、ゲーセケ市の射撃団の構造と活動の中では教会との関係はまだ色濃く残っている。そのためにゲーセケ市の射撃団では、カトリック信仰が強いライン下流地方からウェストファーレン地方の射撃団の本質が見受けられる。しかしこの伝統は変わらずに受け継がれたわけではなかった。ナチス時代に強制的に「ドイツ帝国体育連合」（Deutscher Reichsverband für Leibesübungen）⁸へ統合されて、戦後に占領軍の再興許可を得るために宗教色の強い団体となったともいえる⁹。

ゲーセケ市の射撃団は詳しいホームページを持っており¹⁰、現在の協会規則だけではなく19世紀の会則、詳しい射手規約も掲載されている。そういう意味で基本的な資料が揃っているといえる。そのため他の射撃団より詳しく構造と活動を紹介することができる。いうまでもなく、各町の射撃団が「協会法」に適応したために共通点はある。しかし各射撃団も様々な特徴を持っており、特別な慣習を伝承している。その意味ではゲーセケ市の射撃団は特殊な一例に過ぎないが、ライン下流地方とウェストファーレン地方射撃団の特徴を表す点も多い。

ゲーセケ市にはもう1つ射撃団「1950年の市民射手協会」（Bürger-Schützenverein e.V. 1950 Geseke）がある¹¹。この2つの射撃団の関係からもある特徴を読み取れる。二つ目の射撃団は

7 ここは狭い意味で有産の市民を示す。ある程度裕福な市民でないと必要な銃や制服を購入できず、会費を払うこともできなかった。Borggräfe, Henning: Schützenvereine im Nationalsozialismus, (国家社会主義時代の射撃団) Münster 2010, p.13-14.

8 1938年、ドイツ帝国体育連合は「国家社会主義体育帝国連合」（Nationalsozialistischer Reichsbund für Leibesübungen）に改名され、国家社会主義ドイツ労働者党の配下に置かれた。

9 Borggräfe p.30-40. Busch, Hans-Peter: Geschichte(n) und Dönekes, <http://www.sankt-sebastianus.de>、閲覧2013.10.8.

10 <http://www.sankt-sebastianus.de>、閲覧2013.10.8.

戦後、近隣する地方からの移住民、ドイツ東部からの難民などで開発された郊外の地区に設立された。そのことによって2つの特徴が読み取れる。1つ目は、古い射撃団はゲーセケ市の昔に市壁に囲まれた旧市街に存在したが、閉鎖的で、郊外で新しく開発されたニュータウンの住民の入会を拒んだことである。入会が認められた場合でも、すでに会員である者同士の仲間意識団結によって新しい会員が入りづらくなったであろう。その結果、新しい射撃協会が設立されたであろう。2つ目は、射撃団の伝統は継続されていたので、新しく住みついた人々は仲間を組織化のために射撃団という形を選んで集結したことである。伝統的な射撃団のホームページでは、新しい射撃団を親睦的な関係の協会として紹介されているので、敵対意識や競争意識が見受けられず、地域的に区分されただけの関係のようにみられる。しかしゲーセケ市の代表的な祭りである射撃祭は伝統的な射撃同胞団¹²が単独に開催し、新しい射撃団である「1950年の市民射手協会」の参加の行跡がみられない。

最初に紹介する資料は射撃団の協定会則（Satzung）である。協会はこの会則を裁判所に提出して、登録協会（社団法人）となった。

資料1¹³

1412年の聖セバスティアヌス射手同胞団の会則

第1条 名前と所在地、運営年度	第11条 名誉評議会
第2条 社団法人資格	第12条 会費
第3条 地区と区分	第13条 会合
第4条 特色と目的	第14条 祭礼
第5条 会員資格	第15条 教会
第6条 会員資格喪失	第16条 スポーツ
第7条 執行部	第17条 故郷、芸術と文化の支援活動
第8条 理事会	第18条 社会奉仕
第9条 執行部と理事会の選出	第19条 同胞団の解散
第10条 地区部隊幹部の職務	第20条 会則改定

第1条 名前と所在地、運営年度

ゲーセケ市の1412年の文書に登場する「聖ファビアンとセバスティアン同胞団」(broderschap sunte Fabian und Sebastian¹⁴) が1947年に「1412年の聖セバスティアヌス射手同胞団」(St.

11 <http://www.bs-geseke.de/> 閲覧2013.10.8. そのほかに合併された自治体の射撃団も存在する。

12 同胞団という名称は中世のキリスト教の思想のもとに発展した。同胞団が共同助け合いを提供するため設立された。ここで紹介するゲーセケ市の射撃団が意識的に協会などを名乗らず、キリスト教信者の団体の名称を使っている。会長は宗教的な団体の同胞団の師（長）（ドイツ語 Meister）と自衛団の司令官である大佐を名乗る。

13 <http://www.sankt-sebastianus.de/>、閲覧2013.10.8.

14 キリスト教の聖人、射殺で殉死したので射撃団の守護聖人となった。Erich, Oswald; Beit, Richard p. 729.

Sebastianus Schützenbruderschaft Geseke 1412) という名前で再設立された。同胞団は教区教会と結ばれている宗教的団体であり、パーダーボルン教区のドイツ歴史的射撃同胞団連盟 (Bund der Historischen Deutschen Schützenbruderschaften) に所属している。

会員総会は、多数決でドイツ歴史的射撃同胞団連盟からの脱退を決めることができる。同胞団の所在地はゲーセケ市である。会計年度は暦年である。同胞団の旗色は、黒、白、緑である。同胞団は以下に示された紋章を使っている。[紋章は略]

第2条 社団法人資格

「1412年聖セバスティアース射撃手同胞団ゲーセケ e.V.」は、社団法人である。この社団法人はリップシュタット地方裁判所で社団法人番号413番として登録されている。

第3条 地区と区分

同胞団の所在地はゲーセケ市（中心部）である。同胞団の存在目的を果たすために三つの部隊 (Hofe) に分割されている。この分割方法は過去の例を参考に行い、これらの部隊は北部隊（第1部隊）、西部隊（第2部隊）と東部隊（第3部隊）と呼ばれている。部隊の区分は射撃規則により詳しく説明されている。

第4条 特色と目的

- 1 会員たちには同胞団の基礎理念である「信仰、道徳、故郷のために（“Für Glaube, Sitte und Heimat”）」の実現に努めるように義務づけられる。
 - a) キリスト教の信仰を守ることとエキュメニズムの精神の実現に努める。すべての宗派のキリスト教徒は、同胞団では等しい権利と義務をもつ団員になることができる。団員はキリスト教の慈善の精神で同胞の精神を施し、社会格差を失くし、キリスト教の同胞愛の精神で社会貢献に努める義務がある。
 - b) 私生活と社会生活の中で、キリスト教の習慣や文化を維持することで道徳を守るという義務がある。
 - c) 郷土愛や地域共同体への奉仕、活発な隣人助け合い、活発な地域のサポート、移動文化遺産である銀の王の盾、往還の王の盾、タンブリン、鼓団長の熊毛帽子のメンテナンスと維持、道端の十字架と祠の修理、近隣の射撃団との交流、音楽とドラム隊の維持によって歴史的伝統と古来の行事を保持する。
- 2 特に、青年射手部門 (Jungschützenabteilung) での射撃スポーツの維持・促進を通じ青少年を支援する。
 - 3 a) 協会は営利目的ではなく、慈善と宗教的な目的を追求している。これによって該当の税収規則の“特別保護される目的”に認められた。
 - b) 同胞団は非営利団体であり、基本的に独自の経済利益を追求しない。
 - c) 同胞団の資金は会則に従って適切な目的のためにしか使用できない。会員は、同胞

団から報酬を受けない。

d) 同胞団の目的に不相応しくない出資やまたは異常に高い報酬は、公平さに欠けるため相応しくない。

第5条 会員資格

同胞団の目的を承認するすべての16歳以上でキリスト教の男性は同胞団の会員になることができる。同胞団入会申請は書面で執行部（第7条）に提出しなければならない。執行部がその申請を審査する。14歳から青年部射手部門に入会することができる。青年射手部門の在籍期間は、同胞団の在籍期間に算入される。選挙には16歳以上の会員が投票でき、18歳以上の会員が立候補することができる。全ての会員が会員目録に登録される。

第6条 会員資格喪失

同胞団の会員資格は死亡による退会または除籍によって終了する。退会希望は、執行部に書面で通知する。退会表明は執行部に到着した時点で有効となる。支払われた会費は返金されない。会員が重要な規則、特に協会会則に違反した場合は、協会は会員を除籍することができる。重要な違反とは、会員の正当な理由を考慮した場合であっても、会員を協会に存続させることが協会に絶大な危害を加える場合である。伝令使または書留便で二度会費の未納を通告したにもかかわらず、二度目の通知から3ヶ月以上尚滞納している場合にも除籍することができる。名誉評議会（第11条）で会員の除籍を決定する。除籍決定以前に、該当会員に十分時間を与えて、書面で弁明させる機会を設けなければならない。該当会員からの書面による弁明は、名誉理事会の会議で読みあげられなければならない。該当会員は、2週間の予告期間に信頼する助言者の支援を得て、名誉評議会の会議で弁明する権利がある。名誉評議会は該当会員の弁明を聞かなければならない。2/3以上の可決で決定すれば該当会員に伝令使または書留便で決定の説明文章とともに通知しなければならない。名誉評議会の決定に対して、該当者は総会への上訴権を持つ。不服申立は除籍決定の知らせの到着後、1ヶ月以内に書類で執行部に提出しなければならない。不服申立は除籍を延期させることができる。期限内に不服申立を行ったら、2ヶ月以内に執行部は総会を開催しなければならない。総会が開催されない場合、決定された除籍事項は無効となる。名誉評議会手続きに関する規定を準用する。上訴期間が終了した場合、また総会で不服申立が拒否された場合は除籍が決定される。

第7条 執行部（Vorstand）

民法上の同胞団の執行部は、3人で構成される。第1同胞師（Erster Brudermeister）（大佐）と、第2同胞師（Zweiter Brudermeister）（中佐）と事務局長（Geschäftsführer）（大尉）。この執行部は、外部に対して同胞団を代表する。執行部のうち2人以上の口頭もしくは書面の意思表示は、法的にも同胞団の拘束力を持つ意向表明とみなす。執行部は、協会の資産を管理し、日常的な運営活動を行い、同胞団の代表として務める。理事会は執行部の活動を支援し、

助言をする。重要な決議の場合、執行部は総会での議決を得なければならない。第1 同胞師は理事会と総会を招集し、議長を務める。

第8条 理事会 (Erweiterter Vorstand)

民法上の諮問機関として理事会 (幕僚 (Stab)、地区部隊幹部 (Hofenvorstände)) が設置されている。これは、以下のメンバーから構成される。

- 会計係2名 (Rechnungsführer)。彼らは経理と会員録を管理する。会計係は総会で年間の収入と支出と新しい会員と退会した会員を報告し、選出された監理役と会計審査と異議申し立て等の処理を行った後に、執行部とともに総会により任務を解かれる。
- 会場中佐2名 (Platzmajore)：協会会則の第14条に基づき開催されるイベントの準備を行う。他の理事は彼らを支援する。さらに、会場中佐は同胞団の機器や土地を管理する。
- 大隊医師 (Bataillonsarzt)：同胞団の医療面で助言し、特に射撃祭の際、救助サービスを準備する。
- 監理役 (Auditeur)：法律の専門家である。同胞団の法的な面で助言をし、全般にわたって、会則や法令が遵守されることを監督し、会員を除籍する名誉評議会に参加する。
- 記録係 (Archivar)：会議の議事録の作成し、それをアーカイブで保管し、他の歴史的に重要な書類を保管する。
- 報道官 (Medienoffizier)：地域メディアや全国メディアで同胞団の適切な報道を担当する、例えば、同胞団のホームページの製作を担当する。彼は事務局長と密に協力して活動する。
- 青年射手師 (Jungschützenmeister)：青年射手部門 (Jungschützenabteilung) とその催しを統括し、特に的の王 (König vor der Scheibe) の決定戦と青年王子 (Schülerprinz) の決定戦を開催する。
- 射撃師 (Schießmeister)：全ての試合 (大隊試合や優勝杯試合) の責任を持ち、鳥を射ち落す試合を会場中佐たちと共に監視し、地区部隊の射撃士官が法律に定めた訓練を受けるように監督する。
- 大隊の副士官 (Bataillonsadjutant)・幕僚：副士官は一年中、特に射撃祭の際に、執行部を積極的にサポートする。
- 王の補佐官 (Königsadjutant)：一年中、特に射撃祭の際、王、女王、王冠の王と妃、廷臣 (Hofstaat) に従事し、彼らにしきたりを教え、会則が遵守されるように指導する。
- 各地区部隊の幹部 (Hofenvorstände) 大尉 (Hauptmann)、旗手 (士官候補生) (Fähnrich)、軍曹 (Feldwebel)、旗手下士官 (Fahnenunteroffiziere)、各地区部隊から少尉10人 (Leutnants)。
- 必要であれば総会でほかの幕僚と特任の顧問を選出したり、名誉士官・名誉会員を任命したりすることができる。
- プレーセス (Präses)：市教会の神父が選出されなくてもプレーセスとして理事会に属する。例外的にゲーセケ市に勤めているほかのカトリック神職もプレーセス役を努めることができる。終身任命をされる。

- 宗教的守護者 (Geistlicher Prokurator): プレーセス・名誉プレーセス以外同胞団に特に関わりを持つ教会の高職の神職は総会で聖セバティアヌス射撃同胞団ゲーセケ1412 e.V. の宗教的守護者に選ばれる。
- さらに、現役の射手王 (Schützenkönig) と王冠の王 (Kronkönig)、的の王 (König vor der Scheibe)、そして地区部隊の提案により 9 名 (最大12名、各地区部隊のから 3 – 4 名) が顧問として理事会に属する。

第9条 執行部と理事会の選出

執行部および理事会、そして理事会に属さない会計監理役は、多数決により総会で選出される (地区部隊幹部は例外)。監理役の再選は一度だけ可能である。選挙は公共の場で挙手によって行う。申請があれば、出席会員の大半の同意を得たら、秘密投票を実施する場合もある。地区部隊の選出にこの会則を適応させる。しかし少尉の選任は必ず秘密投票で行う。各有権者は10票を持ち、少なくとも候補者の中から5人を選ばなければならない。そうでない場合は、投票は無効票になる。最も多くの票を獲得した候補者が当選となる。中尉が幕僚に選任された場合や、または中尉が他の理由で地区部隊幹部から引退した場合、その次に最も多くの票を獲得した候補者が繰り上がり当選となる。各地区部隊の幹部選挙結果は次の総会で挙手によって確認される。投票は、地区部隊幹部全体に対して行う。ある地区部隊の幹部を総会によって認められない場合、当該地区部隊は3ヶ月以内に、新たな選挙を実施しなければならない。

第10条 地区部隊幹部の職務

地区部隊幹部は、会則に従って、地区部隊内に射撃同胞団会則の第4条に定めた目的の達成に努める。各地区はさらに細分割され、地区部隊士官はそれぞれの小地区を統括する。必要に応じて、地区部隊の会議を開催することができる。3年間に一度、地区部隊会議を招集し、幹部を選出する (第9条)。

第11条 名誉評議会

名誉評議会では第6条に従って会員の除籍を決定したり、すべての項目において同胞団に助言したりする。必要な場合には執行部の招集によって名誉評議会が開催される。会員の除籍を決定する際、法律相談者監理役が助言者として加わる。

第12条 会費

同胞団は、同胞団の目的の実行と会則に書かれた債務の履行のために会費を集める。会費額 (通常会費と半額会費) は総会で決定される。会員の通常会費は20歳から65歳までの会員から徴収され、それ以外は割引会費となる。執行部は、会員から要求があって社会的な理由がある場合には2月15日まで会費の減額を決定する。該当会員は適切な証拠書等 (学生証、

福祉の通知など）を提出しなければならない。

年間予算の10%は、会則第4条第3項及び第18条に基づく救済基金に適用される。要望があれば、年間予算から救済基金への送付割合は総会において過半数の採決によって変更することが可能である。同胞団のための活動は、自発的かつ無償である。要求に応じて経費の弁済は可能である。

第13条 会 合

同胞団は年に一度、基本的には1月末の2週間に行う聖サンセバスティアン祭に、通常総会（総会）を開く。この総会に以下の議案を審議しなければならない：

- a) 昨年度の活動報告
- b) 監査報告、幹部会と会計責任者の免責
- c) 幹部会と理事会の選挙（3年ごと）
- d) 年会費の決定
- e) 毎年恒例のプログラムの確認

必要に応じてはかの総会と理事会を開催する。会議での投票は挙手制で行われる。申請があれば、出席している会員の大半の同意を得たら、秘密投票を実施しなければならない。

総会に関する議事録が作られ、執行部2人（第7条）と記録係が署名する。記録係が出席できない場合、執行部によってその総会の場で任命された議事録担当が署名する。議事録は記録係によってアーカイブに保管される。総会の招集は少なくとも総会日の5日前にゲーセケの新聞「パトリオート」に掲載する。

第14条 祭 礼

同胞団は宗教的組織の特徴を持つので、同胞団の宗教的姿勢により同胞団は協会の行事、特に賞賛日の行列とコーパスクリスティの行列、守護聖人または他の特別な宗教的なイベントに参加する。社交的な祭りの中で射撃祭が最も重要である。これは毎年行わなければならない。射撃祭は7月の第一土曜日に始まる。この祭りは特に郷土のあらゆる伝統文化と慣習の維持に貢献する。例外的に特別な理由がある場合、総会の2/3以上の可決で開催日を変更できる。射撃祭では射手王と王冠の王を決定するために鳥に向かって行う射撃試合が行われる。細部の流れは射手規約で定められている。射撃祭は常に宗教的儀式によって開始される。聖セバスティアンを祝う日に同胞団は、親睦の夕べを開催する。

第15条 教 会

同胞団は毎年射撃祭の土曜日と守護聖人の日に会員と故人を慈しむ会員のための荘厳なミサを開催する。このミサで同胞団の旗が祭壇に配置される。会員の葬儀の際、同胞団は故人が属した地区部隊の旗を持つ代表团として参加する。

毎年の聖セバスティアンの命日に荘厳なミサで理事会が同胞団の代表として忠誠の誓約を

改めて誓う。

第16条 スポーツ

同胞団は、射撃スポーツを維持させるため、射撃部門を持ち、青年部はその中に所属する。射手の青年部は聖セバスティアン青年射手ゲーセケ（BdSJ）で構成される。聖セバスティアン青年射手の意義、目的、機能や組織はパーダーボルン教区の BdSJ の規定で定められている。毎年恒例の射撃祭に先立ち、的の王と学生王子が射撃部門で選抜される。

第17条 故郷、芸術と文化の支援活動

同胞団は、組織として町の郷土協会（Heimatverein）に団体会員として協力し、その活動を後援する。執行部は、芸術的価値を持つ同胞団の古い持ち物を厳重に保存し、新しい旗などの購入の際、芸術部門の専門家と相談する。

第18条 社会奉仕（Soziale Fürsorge）

会則の枠内で、財源が許す限りで、同胞団は聖セバスティアヌス射手同胞団 e.V. の救済基金を通して、慈善寄付を行う。寄付の配分についてはプレーセスと第1同胞師が協議して決定する。

第19条 同胞団の解散

協会の解散、解体また税特権の排除の場合、協会のすべての資産は15年間に市教会と参事会教会、聖マリア教会、ゲーセケ市によって共同で管理受託される。

15年以内に、解体当時の協会会則上に従って新しい協会を設立しない場合、管理者は、同胞団の資産を慈善的で、慈悲的、または宗教的な目的に、ゲーセケ市中心部の住民のために使わなければならない。

第20条 会則改定

本会則は、総会でのみ改定することができる。改定議案は執行部に少なくとも総会の2週間前に提出しなければならない。改定の決定は、総会で出席する会員の75%が改定案に同意する場合にのみ可決される。

ゲーセケ市 2005年1月28日

フリドリヒ・ベルクマン博士、第1同胞師、大佐 署名

ヨハネス・フォルマー、第2同胞師、中佐 署名

ハインツヨーセフ・ディルゲスワイラ、事務局長、大尉 署名

上記の資料は公的かつ最大の会則である。この会則は教会法に合わせて制定された。大ま

かなことはその資料から同胞団の組織構造と活動も読みとくことができる。多くの射撃団にはこのような会則しか存在しない。しかしゲーセケの同胞団にはさらに詳しい規約がある。この規約の中に細かく祭典などでの活動が記載されている。このようなしきたりは多くの場合は、口伝で伝承されおり、文章化されていない。しかししきたりの継承が危惧視されているので、文章化することもある。規約は外部に向けてではなく、会員に対するメッセージである。

ゲーセケの射撃団の規約のなかで、射撃団の変化もみられる。例えば、現代社会に適応するためにメディア担当が設置された。しかし、ゲーセケ市の射撃団が古い伝統を保持する面もみられる。他の地域では消滅したダンスが残っている。また、現在では「千鳥足行進」(Wackelzug)¹⁵ という少し砕けた行進はほかにノイス市 (Neuss) の射撃祭でしか行われていない。その意味で、ゲーセケ市の射撃団の規約には過去から伝承されているものと、新たに取入れられたものが窺える。特に射撃団の執行部の射撃団の伝統保持に対する思いが読み取れる。

この2007年の規約は以前の会則より少し口語調で書かれている。若干会員しか解らない皮肉も込められている。会則と規約が重複する部分もあるが、この規約は協会としての側面より同胞団としての側面がみられる。そのため頻繁に「射手の兄弟」という表現が使われており、同胞団を疑似兄弟の関係に見立てている。ここでは伝統的に兄弟は平等である。「同胞団」と「射手の兄弟」という言い方によって平等な社会のイメージを作り、平等の付き合いを追及している。

資料2¹⁶

射手規約 (Schützenordnung)

1. 序

同胞団のモットーは「信仰、道徳、故郷のために」である。

この原則は射撃習慣の伝統的な原理として見られるだけではなく、同胞団の宗教的信念の根深さと、我等同胞団員の社会の道徳的、倫理的、人道的な原則、我等の故郷のゲーセケ市との深いつながりを表している。我等はこの原則から派生した協会規約の主要な機能を以下に示している。いうまでもなく、この協会体制の発展に終わりは無い。

15 千鳥足行進とは、規律の厳しい普段の行進と反対に砕けた行進である。その伝統はゲーセケ市の他にノイス (Neuss) 市のライン地方最大の射撃祭しか残っていない。ノイス市では千鳥足行進がカーニバルの影響を受け、仮装行列に発展している。この傾向に対する「射手の品格」が欠けていると批判して、反対する執行部や部隊もいる。<http://www.ngz-online.de/neuss/nachrichten/wackelzug-spaltet-die-schuetzenwelt-1.3407224>、閲覧2013年10月9日。

16 <http://www.sankt-sebastianus.de>、閲覧2013.10.8。

我等の同胞団のルーツ

同胞団の起源は、14世紀後半の歴史に遡る。1412年に最初の史料が記されている。歴史のなかで我等のキリスト教信仰との密接な関係も表われされている。

都市とその人々の防衛は最優先事項であった。または支援とサポートが必要とされたときにそれを行ってきた。射撃祭と、教会と都市への奉仕の繋がり関係は、しばしば政府・行政と対立した。ルーツは簡単に断ち切れないおのであり、そして断ち切ってはいけない。

我等が支援する人々

同胞団とその多くの非常に献身的な団員は、最大かつ最も影響力のある団体として継続してゲーセケ市の町のコミュニティの多くの活動を担わなければならない。長年、ゲーセケ市当局が多くのサービスを提供したので、安心していましたが、もはや市当局は持続できなくなった。特に子供たちと若者、高齢者、重病を抱えている人々や死にゆく人々は我等からの助けとサポートを必要としている。

伝統、故郷とのつながり

伝統というのは厳密には古いものを維持するだけではない。伝統というのは古いものを残すことだけでなく、新しいアイデアを積極的にとりいれていかねばならない。古い物事は新しい物事と調和してゆかなければならない。両方がお互いのメリットを尊重しなければならぬ。古い物事と新しい物事はどちらも同胞団の存続のために重要である。

激変する現代、社会の中で孤立してゆく個人は、故郷とのつながりに新しい拠り所を覚える。世界中を旅している者もいつも心の拠り所である故郷に帰ると安心感を覚える。我等はここで育った。また我等がここで家族や友人と巡り合って、我等はこの故郷に所属している。同胞団は実家のようなこの故郷の一部である。同胞団は射手兄弟の結合として、我等の価値観と同感するすべての住民とネットワークを結んで、今の激動の時代に住民の支えとなる。

故郷はまた、我等の都市生活の古い歴史の保存と保護も意味する。我等は同胞団としてすでに、この古い都市の歴史の一部を作ってきた。それは我々の誇りである。

2. 執行部

歴史的な背景により、同胞団は戦後にパーダーボルン教区のドイツ歴史的射撃同胞団連盟（BHDS）とレバークーゼン地区に所属している。近隣する射撃団とゲーセケ市のすべての射撃団の親密な関係はザウアーラント射撃同盟（SSB）のメンバーであるリップシュタット郡射撃協会に所属していることで証明される。

ザウアーラントの射撃同盟とドイツ射撃同胞団同盟の交差する二重のメンバーシップはまた、境を越えた責任につながり、我等はその責任を非常によく認識している。

したがって、第1同胞師は我等の代表としてドイツ歴史的射撃同胞団連盟のパーダーボルン教区地区の同盟地区長（BBM）及び教区評議会の議員である。（承認が得られれば、名誉

大佐はこの役を務めることもできる。)

会則と伝統に従って、次の章の同胞の役員のランクと役割分野が表示されている。射手兄弟の多くは各役職の仕事を周知していないであろう。そのため伝統的なことと過去数10年にわたって必要となったことを明記しよう。

第1 同胞師 (1. Brudermeister)

第1 同胞師は（会則に従って）大佐の地位を保持している。第1 同胞師は、伝統的な司令官と法律的な協会である同胞団の会長である。執行部の他の2人と、第1 同胞師は、日々の業務と協会の資産を管理し、同胞団の代表を務める。

第2 同胞師 (2. Brudermeister)

第2 同胞師は中佐のランクで、第1 同胞師兼大佐の代理人である。第2 同胞師は駐屯地からの出動と射撃祭での3つの部隊の指揮官である。

伝統的には、大佐と相談しながら行進ルート、部隊の取締役及び王たちを決める。第2 同胞師は楽団や音楽を担当している。第2 同胞師の指揮の下、旗の行進が練習され、旗は、第2 同胞師の直接指揮に従う。

射撃祭の手順（セレナーデや長いダンス）は第2 同胞師の指示で行い、2人の補佐官は第2 同胞師に協力する。

事務局長 (Geschäftsführer)

大尉のランクで、執行部の第3の理事として協会の様々な事務の仕事を担当する。招待、文通、出動の際のバスの用意、契約、同胞団のホールの貸出、理事会の調整などは事務局長の仕事である。書記という昔の職名は2005年の新しい会則で廃止された。事務局長は広告活動を統括している（プレス・メディア担当と一緒に）。事務局長は同胞団の宝（王のシールド¹⁷と女王のディアデム）と勲章を管理する。

プレーセス (Präses)

宗教的プレーセスとして市教会の神父が理事会に属す。選出に際しては投票の必要はない。例外的にゲーセケ市に勤めているカトリック神職がこの役職を務めることができる。

宗教的検察官 (Geistlicher Prokurator)

同胞団の宗教的検察官として、プレーセスまたは名誉プレーセスの他に、特別に聖セバスチャン同胞団の面倒をみる教会中で特別な地位がある者から選ぶことができる。宗教的検察官は終身任命で選ぶ。(2001年1月の総会以来、この地位は現職ミュンヘン・フライジングの

17 王の首にかける王の名前が刻まれた胸飾りである。

大司教、射手兄弟とゲーセケ市出身の枢機卿ラインハルト・マルクス博士が勤めている。)より高いランクを持たない限り、以下の理事は、中尉のランクから上進を開始する。

会計担当官 2 人 (Rechnungsführer)

第 1 会計責任者 (会計担当官は祭りのために醸造用品、必要な資金を調達していたので、以前は“大シャフナー”または“大シェファー”と呼ばれた) は会計係として協会の財務を管理している。第 2 会計責任者は、同胞団員の管理を担当し、正確な同胞団員名簿を管理する。部隊 (Hofen) により会員への正確なサポートとサービスのために会計担当官は毎年各地区に区分された名簿を作っている。

会場中佐 2 人 (Platzmajore)

会場中佐は、協会の会則第14条に従ってイベントの準備を担当する。

会場中佐は他の理事たちによってサポートされている。さらに、それは同胞団が所有する機器や施設の維持管理を担当している。会場少佐の古い名称は“Schützenmeister”や、さらに古い「庭のシャフナー」(会場中佐は古い射撃場で schaffen (作業する)) であった。我等の会場少佐は射撃場のメンテナンスやビューレナー通10番地にある我等の同胞団の会所を管理する。

監理役 (Auditeur)

すべての法的事項に同胞団に助言行う弁護士は、執行部が会則と法律を遵守することを管理している。規約の下で、監理役は同胞団人の除籍決定を決める際の名誉評議会の会合に参加する。監理役はパレード出動に王と女王に同行し、伝統的に王の左隣に位置する。(用事で留守する場合第 1 会計担当官が代行する)。

大隊医者 (Batallionsarzt)

大隊医者は同胞団のすべての保健関連業務を担っている、特に射撃祭り中の救急医療と救出を統括している。大隊医者は出動の際に王と女王に同行し、伝統的に女王の右横の位置に進行する (特別な理由がある場合、第 2 会計担当官が代行する)。

記録係 (Archivar)

2005年の会則の改正で、この役職が追加された。同胞団の増加するアーカイブ (市立公文書館に寄託)、および膨大な画像コレクションの管理のために理事会の見解により記録係の役職を導入した。記録係は、議事録および同胞団の他のすべての重要な歴史的文書のアーカイブ保管記録を担当している。記録係はすべての会議の議事録を作成する。記録係はパレード出動の際、隊旗・王旗と同行する。

報道官 (Medienoffizier)

現代コミュニケーションと公のメディアやインターネットでの広報活動のためにこの役職の導入が必要となった。報道官は同胞団のホームページを維持し、メディアでの適切な広報を担当する。報道官は広報活動においては事務局長と密接に連携している。報道官は出動の際、隊旗・王旗と同行する。

青年射手師 (Jungschützenmeister)

青年射手の代表として青年射手の活動を統括している。青年メンバーの関連諸事を統括して、試合を開催し、的の王と生徒の王子の決定戦を開催する。青年射手師は射撃祭の土曜日に広場で射手に王と青年王子の顔合わせを行う。選ばれた青年射手師は青年射手の代表として地区青年射手師連合の役職につく。

射撃師 (Schießmeister)

射撃師はその年の射撃大会（大隊の射撃、射撃杯等）を担当している。会場少佐に加えて、祭りでの鳥射撃を監視する。射撃師は部隊（ホーフェン）の射撃士官の法律に定めた訓練に責任を持つ。

大隊の副士官 (Batallionsadjutant)

すべての分野で、特に射撃祭の実施において幕僚を精力的にサポートする。大隊副官は旗の行進を直接指揮し同行しているため、伝統的に旗部隊の隊員とみなされる。王の補佐官と一緒に、大隊副官は王を決める一射とその後に開催される会合のあと、女性廷臣たちを祭りに誘う。

王の補佐官 (Königsadjutant)

王の補佐官2人は、他の多くの射撃クラブや同胞団と違って、王によって任命されず、執行部から選出された理事である。これは、2人が一年中同胞団の理事として勤める諸事からである。年間を通じて、特に射撃祭に、王の補佐官は王と王妃、王冠の王と廷臣をサポートし、全ての行事に同行する。補佐官2人は、直接執行部の配下に位置し、密接に協力しあう。

幕僚の大尉 (Hauptmann beim Stabe)

同胞団は総会で幕僚の大尉を任命できる。伝統的に「第1の市民」といわれている市長が幕僚の大尉を勤める。この理由はゲーセケ市と同胞団との間に密接な関係があるためである。他の役員は、執行部の提案に基づいて任命される。

名誉士官、名誉会員 (Ehrenoffiziere, Ehrenmitglieder)

理事会の決定により、士官は総会で終身名誉役員を選出できる。申請は適切に説明されな

なければならない。選出された名誉役員は出動の際に士官の制服を着ることができる。名誉役員は、同胞団の理事を務め、投票する資格がある。現役の士官を名誉士官に任命するためには第一に少なくとも大尉の位であり、第二に55歳以上であるという条件でなければ申請ができない。30年間務め、55歳以上の士官は申請が受理された後に、自分の部隊の役職のない名誉士官に任命される。評議員として務めた期間はその計算には加算されない。

名誉大佐は行列のなかで大佐の後ろに中佐と事務局長とともに行進する。名誉士官は行列の中で団体を組んで、現役の幕僚の後を行進する。

青年射手団・スポーツ射撃団、部隊の名誉会員の任命は規約上可能である。これらの名誉会員は、同胞団の理事会の会員ではないが、部隊や青年射手団の会合に参加する。

部隊の幹部 (Hofenvorstand)

1926年に同胞団の中堅として、ふたつの連隊は再編成され、古い町に合わせて古い名称で3つに増加された：北部隊（第1部隊）、西部隊（第2部隊）、東部隊（第3部隊）

ゲーセケ市旧市街には4つの部隊があった。第4部隊は中央部隊とよばれて、南部隊は存在しなかった。

部隊は彼らの幹部を自分たちで選出し、その際の選挙は会則に従って総会で承認されなければならない。部隊は独立しているが、会則とそれに従って理事会の命令下に置かれている（部隊は協会の中の独立協会ではない）。

大尉 (Hauptmann)

部隊は大尉が率いる。大尉は理事会に属する。大尉はその部隊の構成員を代表し、部隊は大尉の指揮に従う。

旗手 (Fähnrich)

旗手もまた部隊で選出され、出動における旗の持ち手だけでなく、部隊の旗の責任を持つ。旗は昔から同胞団の象徴であるように、それは射手行列だけでなく、様々な年中行事にも持ち出されている。したがって教会の行列、出動、メモリアルデーや葬式は、旗手にとっては参加必須行事である。

中尉 (Oberleutnant)

部隊の選挙で選出された10人の少尉の一人である。以前は、勤めの長い少尉が自動的に中尉に任命されていた。今日、中尉は最初の幹部会で少尉の中から選出される。会則に従って、中尉は、部隊の副長である。パレードでは、中尉は矛グループを先導している。

少尉 (Leutnant)

中尉の他に9人の少尉が選出され、その中の一人が一つのグループ（列）の行進を先導し

ている。出動の際には、射手は非常に人数が多い。中には40人の射手で構成されているグループもあることは驚くべきことではない。担当の少尉は、このように大きな重大な責任があり、少尉のグループが射手ミサを訪れたことに責任を持たなければならない。

軍曹 (Feldwebel)

また Spiess または「部隊の母親」と呼ばれている。軍曹は大尉の右腕である。軍曹は一行に並ぶときの整列の責任を持って行う。整列させた後、大尉に伝える。軍曹は出動の際、部隊の最後のグループの指導する。(軍曹は士官の初官である)

評議員 (Beisitzer)

新会則の導入により、部隊幹部の考えに従って評議員 (部隊当たり 3 - 4 人) が選出されている。経験を考慮し、部隊の活動を盛り上げる使命を持つ。

旗同伴者 (Fahnenbegleiter)

部隊で選ばれた旗手は自分の 2 人の同伴者を任命する。旗同伴者は、部隊総会によって承認される。旗同伴者は軍曹の階級であり、場合によっては旗同伴者は旗手の代りを勤める。各部隊で一人の交代の旗同伴者を任命することが好ましい。交代で、この旗同伴者たちは出動の際に、大隊の旗・王の旗を運ぶ。伝統的にすべての選出士官と名誉士官は、各部隊の幹部に所属し投票権がある。

3. 王たち

我等の王たちは、同胞団の代表である。公布により、同胞団の王と王冠の王は任期中、すべての権利及び義務を含む同胞団理事会の一員となる。伝統的に、まず射撃祭の土曜日に鳥を撃ち落とす王冠の王が決定される。鳥の王冠またその残骸を射ち落とす射手兄弟は王冠の王となる。

伝統的に、王は 2 人の女性を廷臣に任命することができる。土曜日の夜に千鳥足行進で公布される。

木製の鳥の残りの部分を射ち落とした射手が同胞団の王になる。王の戴冠式も土曜日の夜に「千鳥足行進」の前で行われている。王は、コンクラーベで女王を指名し、そして 10 人の他の女性を廷臣に指名する。

同胞団の王は郡の射手王として外部の射撃競争に参加している (王はこのように、すべての連邦射撃競争に参加することができる)。

射撃祭が行われる前の 4 月に、青年射手・スポーツ射撃部門が射撃試合を的の王の座を狙う。エアライフルで最高の得点をとった青年射手は的前の王の位を得る。的の王は、同胞団の代表として地区の射手王子になる。

14 歳から 16 歳までの青年は生徒王子の位を狙う。青年部の的の王と生徒王子は君主として

マルクト広場に射撃土曜日に公布される。両者の中での王だけは会則上、理事会の一員である。

同胞団の栄光である女王は、射撃祭の土曜日のコンクラーベ後に補佐官を引受けるかどうか聞かれる。

王と王冠の王の公布の後、女王と新しい廷臣を迎えるために千鳥足行進（Wackelzug）が動き出す。指名された新しい女王と廷臣は前任の女王と大佐によって任命される。陛下や廷臣の発表は日曜日の午後にマルクト広場で行う。

王冠が撃ち落とされたら、陛下と女性の廷臣は射撃場を離れる。音楽団は演奏によって旧王室を送る。

会場の門では王の補佐官は女性の廷臣が旧女王の伝統的な食事会に参加できるように車（タクシー）を用意する。王達と男性の廷臣たちは、射撃場に残ることができる。

前年の女王はもはや自動的に新たな宮廷の廷臣ではない。新しい女王の戴冠式の後、前年の女王は最後、もう一度射撃場に向かっていく。前年の女王は王の補佐官とともに、新しい陛下たちにアドバイスをする。一方、旧廷臣が旧女王を心から歓迎するように準備する。

4. 射撃祭の準備

飲食小売契約

4月までに、同胞団の委員会（執行部、幕僚、陛下たち）は、次の射撃祭に適した飲食店主と契約を結ばなければならない。委員会は、射撃試合が円滑におこなわれるために適切な条件で交渉することが求められる。

ワイン試飲会

射撃祭の飲食店主は遅くとも6月上旬まで、ワインの試飲会に執行部を招く。同胞団の委員（理事たち、幕僚、部隊長、現役の陛下たち（王、女王、王冠の王、名誉士官）は射撃祭で提供する予定のワインを試飲する。ここでは、ライン川地域の代表的なモーゼルワイン（今は、もちろんヨーロッパの他の産地からのワインも）を用意する。委員は、決まった方法でそれらの価格と対価で特に適当なワインを選出して、星マークで表彰する。この星のマークの表彰は射撃祭でワインリストに印刷され、ワインの選別のヒントとして使用される。昔は、この試飲は、提供されるビールの品質調査が目的であった。長年にわたって、これは提供するワインの品質調査に変わった。（これについては数多くの逸話ある。）

呼び出し（朝礼）の演奏とリハーサル

伝統的に7月の最初の土曜日に開始される射撃祭の前に公開の理事会会議（以前“Vorexerzieren”（先の教練）と呼ばれる）がある。この理事会会議は、射撃練習場の食堂で、通常は射撃祭日曜日前の週末に開催し、すべての射手の兄弟が参加できる。

ゲーセケ市のマーチングバンドによって、会員が理事会に招かれる。マーチングバンドは

それぞれの部隊の本部に“朝礼”（通常の日曜日の約11時頃）で呼び出しする。この会議では、射撃祭の全体の内容が詳細に議論され、射撃祭の完成した準備の報告を聞いて、未完成な準備の担当の理事を任命する。

5. 射撃祭

射撃祭は規約によると7月の第1土曜日に行われる。（1859年の規約では、6月24日と7月18日の間の期間が書いてある。）

現役王と女王、廷臣たちと一緒に王の部隊が新しい祭りのために射撃ホールを飾る。この作業は、射撃祭前の金曜日16時頃に新しい鳥を設置することで完了する。事務局長と会場少佐の2人は鳥の作成を担当する。

会場少佐を先導に、夜間の表敬出動隊員はマーチングバンドと吹奏楽団とすべてのその場にいる射手の兄弟とともに会場のホールで集合し、鳥を持っている人と同行し、鳥のボールへ行進する。鳥はそこでボールに付けられ、国歌伴奏とともに立てられる。その後大佐が短いスピーチをして、夜間の表敬（Großer Zapfenstreich）¹⁸ 出動の指揮官に夜間表敬出動の指令権を与える。夜間表敬出動指揮官は音楽隊と矛槍グループと祭りの要人とともに行進する。

セレナーデと市内の行進で表敬されるのは：

- 陛下たち、第1同胞師、名誉大佐、プレーセス（伝統的にプレーセスを老人ホームに迎える）、市の代表

夜間の表敬出動を主導する士官は、各部隊の駐屯地の前を通過して、出動を短く報告しなければならない。セレナーデ（Ständchen）の演奏で地区部隊員を祭りに招き、皆に敬意を表す。

スケジュールを乱さないように、20時まで射撃ホールに戻るよう指示され、そこで指揮官が大佐に終了を報告する。

2001年以来、射撃ホールで祝う人のための歌がホールで捧げられる。迎える表敬行列が到着した20時15分頃に行われる。この項目は夕方のプログラムのハイライトの一つであるので、この時間帯に一番趣があるため皆が時間通りホールに集合するよう注意を払わなければならない。その後、迎え部隊はもてなされる。

できる限り迅速に楽団はダンスフロアで演奏できるようにすべきである。演奏が早く終了すれば、23時にホールの前にすべての音楽団員を含む表敬出動の参加者全員が集まる。23時にホールの中へ行進する。そこでは、23時で“表敬出動”が始まり、金曜日は正式に終わる。

夜間の表敬出動（Zapfenstreich）

王の部隊から表敬出動の指揮官が選出される。表敬出動とは射手の衣装に身をまとい、射

18 Zapfenstreich は本来、ラッパの消灯のシグナルであったが、大きな儀式に発展した。ドイツ語で Großer Zapfenstreich、英語 Tattoo と言われる。来客等に敬意を表す儀式としても使われている。

撃祭の金曜日に町中でセレナーデを奏でる射手のグループのことを指す。表敬出動は指揮官と矛槍を持つ16の射手で構成される。伝統的に表敬出動の団員が士官の中から4人、女王から任命された4人、王から任命された4人、王冠の王から任命された4人から構成される。

指揮官は王と王が所属する部隊の部隊長と相談して任命される。表敬出動のユニフォームは、次のとおりである。

檜の葉で飾られたシルクハット、新鮮な薔薇が付いている燕尾服（女王は統一した飾りを用意する）黒いズボン、黒いベルト、ワイシャツ、白い蝶ネクタイ、黒い靴、黒い靴下、白い手袋と矛槍

射撃広場での夜間の表敬出動の参加者の飲食物（カナッペ）は王、女王、王冠の王、表敬出動指揮官の1/4の割合で提供される。

夜間表敬出動の命令は：

鳥ボールの下で大佐が指令を出すときに、次のように命令する：「表敬団、立ち止まれ」→「姿勢を正せよ」→「目線を前に」→「銃を肩に」→「列毎に右に回って行進せよ」。

それぞれの駐屯地に出発するときに：「表敬団停止」→「銃を下せ→直れ」。

その後、報告のため：「表敬団正立せよ」→「姿勢を正せ」→「目線を前に」→「誰々にご報告のために目線左に。」「大佐、名誉大佐、プレース、部隊長または陛下に報告いたします。表敬団が御前に揃いました。我等は射手兄弟にとって楽しい射撃祭となることをお祈りしております。」

報告の後：「目線を前へ」→「直れ」。

各々の居住地から出て行進する際には、次のように：「表敬団、正立せよ」→「姿勢を正せ、目線正して」→「銃を肩に」→「列毎に右〈左〉に回せ、行進」→「表敬団、進行」。

射撃練習場に到着した後、表敬団がホールの中央に行進し、命令は次のように：「表敬団停止」→「銃を下せ」→「直れ」。

大佐に報告するには、次のように：「表敬団、正立」→「大佐への報告のため、顔を右向け」。

報告：「大佐、表敬訪問を終了いたしました。報告すべきことは何也没有什么ありません。」

大佐は感謝の意を表し、その後、祝福する人の表敬式のために表敬団がホールの脇に立つように表敬団長に指示する。

祝福式の終了後：「目線を前へ」→「直れ」→「解散」。

射撃祭の土曜日

理事たちは早朝に軍楽隊の音楽で挨拶代わりに起こされる。軍楽隊はその勤めに褒美をもらう。インターネット（www.sankt-sebastianus.de）とメディアに公開されたスケジュール通りに、各部隊が自分の本部に集合する。そこで、部隊長が25年間在籍したメンバーを祝福する。

陛下たち、王、王冠の王および的の王は付き添え人とともに、土曜の朝をそれぞれの部隊と過ごす。伝統によりマルクト広場は、大佐の本部であるので、四方から各部隊がマルクト

広場に行進する。大隊が7時に広場に集合できるように、各部隊はそれに合わせて早く出動する。中佐は大佐に部隊の到着を報告する。それによって、部隊員は「休め」の姿勢をとる。その後、大佐は部隊員に楽しい射撃祭を過ごすようにと部隊に歓迎の挨拶をし、部隊員は「大佐様、おはようございます。」という挨拶を返す。その後、中佐は旗を行進させ、旗は大隊に組み込まれる。続いて、大佐は様々な表彰を行う：

- 地域を超えたレベルの表彰、ドイツの歴史的な射撃団連盟からの表彰
- 的の王の表彰と部隊対決の選手権を制した部隊の表彰、
- 在籍20年及び30年の隊員の祝福、昇進

その後、最初の出動行進が始まる。他のすべての出動行進も以下のような順序となる。

制服：

楡の葉で飾れたシルクハット、新鮮な薔薇が付いている燕尾服、白いズボン、白いベルト、ワイシャツ、白い蝶ネクタイ、黒い靴、黒い靴下、銃を持っている射手は銃の筒に薔薇、矛持ちは白い手袋、陛下たちの付き添え人は白い手袋

部隊の順番は相互のサイクルによって変わる。土曜日の午前中の第1番の部隊は土曜日の午後に第3番となり、日曜日に第2番、月曜日にまた第1番として行進する。他の二つの部隊はそれに合わせて行列の中の位置を変える。

王は付き添え人、また女王が同行したら、廷臣とともに第1部隊の前で行進する。王冠の王は第2の部隊の旗の後、的の王と生徒の王子が第3の部隊の後に行進する。王と女王、王冠の王は監理役と大隊医者に付き添われている。

各部隊は、旗手を率いて大尉に主導される。第2のグループ、矛手は中尉に主導され、または、中尉の留守中に上級中尉に導かれる。他のすべてのグループは同じく、最後のグループを軍曹が主導している。

大隊に整頓・統一したイメージを与えるため、各グループがほぼ同人数があることが望ましい。パレードが自分の地区を通ることは各部隊にとって名誉である。そのために土曜日に東部隊で、日曜日に西部隊で、月曜日に北部隊でパレードを行う。パレードの行進ルートは各部隊長が理事会と話し合って決定する。3日間の行進ルートは中佐が理事会と3人の部隊長の合意の上で決まる。行進は3つの地区を通ることが望ましい。可能なルートを考慮する場合委員会の合意があれば例外もありうる。

表彰式の後、中佐は女王を彼女の住居に迎えるための行進を指揮する。

大佐は女王と廷臣に歓迎の言葉を述べ、その後、大隊へ表敬行進曲の伴奏とともに副士官は陛下たちを大隊に紹介する。観兵の後、陛下たちと廷臣たちが幕僚の後に行列に加わり、全ての行列が射手ミサのために市教会に向かう。陛下たちと廷臣たちはすぐ教会に入るが、大隊はまず矛と鉄砲を下すためにマルクト広場に行進する。

その後、全ての射手たちはミサのために教区教会に行く。ミサ中は、故人を慈しむために

名前を読みあげられる。このため王と女王は中央の祭壇で蠟燭に火をつけて、大佐は聖セバ스티アンの祭壇で蠟燭に点火する（ここで1412年の最初の古文書に思いだしたい）。内陣は飾り付けられている。ミサの後、大隊は以前と同じ順番で追悼記念碑に向かって行進する。大佐主催の戦没者追悼儀式を行う。モミの輪が献花される。その後、大隊がパレードのために東部隊の地域に向かう。そしてその後、大隊が決められたルートを通して射撃ホールに移動する。パレードが病院の前を通るように留意すべきである。射撃広場に到着した後、廷臣はホールの中におかれた玉座に行き、大隊は旗行進に並列する。旗行進の後射手は朝食のためにホールに行く。

ここでは射手の子供たちは昔からのやり方でパンとバターを行進した射手に配る。部隊は飲食店側あるいは大隊からビールを無料で提供される。時間に間に合うように、音楽隊が起床の一小節（ホールの4隅で）で鳥の撃ち落としを報告する。それから陛下たち、廷臣、プレーセス、名誉大佐と大佐と一緒に鳥のボールに行く。（招待客も一緒に行く。）鳥の撃ち落としは名誉であり数射で始まる。その後、鳥の冠をねらって、射撃が開始される。正しい制服を着ている会員のみが射撃に参加できる。鳥の冠が落ちたら、射撃休憩となる。旧陛下たちは直ちにバンドの伴奏とともに射撃場を立ち去る。（王の補佐官が指導する。）射撃中に鳥ボールの近くで待機をしていたバンドは演奏で集まった人々を楽しませる。休憩後は王位をめぐる試合が開始される。

王位を決めた一撃の約30分後、委員会（コンクラーベ）は閉じられた会議場に集まって、廷臣を決める。この委員会は新しい陛下たち、執行理事、名誉大佐、3つの部隊の指揮官と2人の副士官、王部隊の中尉、秘書として記録係とマスコミ官で構成されている。（後者の2人は、サイレントオブザーバーであり、記録して、情報を後にメディアに伝えるため出席している。）

王はこの委員会で自分が選んだ女王の名を知らせて、本人の同意を求めるために補佐官が即時に新しい女王のもとへ向かう。承認が得られると、女性の名前が記載される。ここでは、次の規則を順守しなければならない：新しい王と新女王がそれぞれ5人の廷臣を指名し、王冠の王に2人の官女が指名する。手続き時間を短縮するために予備の女性を示唆していることが望ましい。前の女王はすでに廷臣のメンバーではない（王によって再度選ばれた場合を除く）。

廷臣の最終的な数は、いかなる場合にも、12を超えてはいけない。玉座傍のスペースはより高い人数にすることはできない。副士官はその後廷臣たちに出向いて同意を求める。その後、厳格なコンクラーベが終わる。17時45分に会場とホールで起床の一小節（Reveilléschlagen）によって射手たちが千鳥足行進（Wackelzug）に招待される。

18時に射撃ホールの前で第1同胞師により旧陛下たちへの短い感謝の言葉が述べられ、新しい陛下の即位儀式を行う。宣言は国歌で終了する。

その直後、千鳥足行進は新しい女王とその廷臣たちを迎えるために、女王の寄宿舎に行進する。新王宮では、旧女王と第1同胞師によって新しい女王の戴冠式が行われる。その後は行進せず、歩いて市内を通してホールに戻る。これは旧女王の最後の行進参加である。射撃

ホールに到着したら入り口で献酌侍従（Königskellner）が王と女王を王杯からのドリンクでもてなす。行進はホールで終了する。

まず王と女王はダンスを踊る。その間、射手が回りを囲んでいる。その後、廷臣たちがダンスフロアに入る。名誉のダンスの後、隊列はバラバラになり、玉座に移動する。前の王は前の女王を玉座で迎える。彼女はそこで新女王に祭りの習慣と仕来りを指導する。祭りの公式な終わりはない。

射撃祭の日曜日

11時から12時30分まで、射撃練習場で大きな午前コンサートをおこなう。特に、すべての士官は、その家族やパートナー¹⁹と一緒に出席するようになっている。

14時30分に各部隊が各駐屯地に集まる。王冠の王と王的の王は自分の部隊に参加する。

日曜日に王は、写真を撮る等のため、女王と廷臣たちと一緒に王宮に留まることができる（写真撮影など）。

各部隊は14時45分にマルクト広場に到着するために早いうちに行進を開始する。ここで大尉は少佐に到着を報告して、少佐は大佐に報告する。15時にマルクト広場で協会内の表敬表示、40年理事記念、他の表敬などが行われる。

マルクト広場での旗行進をした後、行列は王・女王の王宮に向かう。留意する点は記念年を祝う元の王たちが行列に参加する時、以下の順位となる。記念の王は現役の王とともに王宮で迎えられている。記念年を祝う王冠の王（Jubelkronkönig）と記念年を祝う王的の王は自分の部隊で参加する。

日曜日の行列のなかで、記念年を祝う元の王は現役の王のあとで、記念年を祝う王冠の王は現役の王冠の王の後、記念年を祝う王的の王は現役の王的の王の後で行列に加わる。

王宮で大佐は陛下たちに射撃祭を祝い、大隊が出揃ったことを報告する。その後土曜日と同様に閲兵式を行う。

その後、全体の行列は、所定の行進ルートに進む。3つの部隊の地区に通るように注意する。

日曜日のパレードは西部隊の地区で行う。すべての陛下は記念年を祝う元の陛下たちを含め練兵場に集まり、パレードによって表敬を受ける。その後行列は射撃ホールに移動し、ホールの前に並列する。

ここでは大佐は、すべての記念年の元陛下たちと入会記念を祝う会員の表彰を行う。現役の女王は記念日を祝う会員に記念メダルを渡す。表敬担当の士官は記念を祝う会員の面倒をみる。表彰式典はいわゆる“表彰協議会”が主催している。彼らは祭りの前までに長い時間をかけて、この日曜日の計画をたてる。

表彰の後、旗行進を行って陛下や廷臣と記念を祝う会員がホールに入り、大佐は大隊を解

19 ここには社会の現状、結婚せずに同棲する人が増えてきたことに配慮をみせる。伝統的な習慣と道徳を守るといいながら、社会の変化の対応をせざるをえない。

散させる。約18時頃には大規模な“王のポロネーズ”が開始される。それは副士官2人が主導し、射撃ホールの裏の広場で行う。“ポロネーズ”で陛下たちと男性の廷臣、すべての士官は、白い手袋と高帽子を着用しなければならない。最初に補佐官、次に陛下たちと廷臣たち、その後に参加しているすべての士官、その後には射手たち、最後に参加するゲストがついていく。ポロネーズはホール内で全ての陛下たちが参加する「王のダンス」で終了する。これには女性の廷臣やホールの飾りに貢献した女性、特に旧廷臣の女性たちが加わる。一般のダンスで“ポロネーズ”は終了する。

20時に舞踏会を開始するため、廷臣の食事は、19時にはじまる。遅くとも22時30分には「ケーゲル」の伴奏が演奏され、23時30分に「タンペーテ」が演奏される。「ケーゲル」と「タンペーテ」の間に陛下へのセレナーデを演奏することができるがこれは必ず少佐に申し出をし、少佐とスケジュールの調整をしなければならない。「エクセーズ」を踊る場合は、ダンスを夕方にはじめ、遅くとも21時に演奏を開始しなければならない²⁰。

射撃祭の月曜日

月曜日には11時から広場でコンサートが開催される。この時点では、陛下と廷臣、そして仕事の休暇を取得可能なすべての射手が市場に到着することが良い風習である。この野外コンサートは12時30分に終了する。

各々の部隊の出動、マルクト広場への行進、旗の行進は日曜日と同様に行う。

女王と廷臣の迎えは、街中をねりあるく行進は日曜日と同様に行う。王と廷臣は王宮で待機する。

月曜日のパレードは北部隊の地区で行う。祭り会場に到着すると、陛下たちと廷臣たちはすぐホールに入る。ホールの前でパレードを日曜同様に行う。

旗の行進の後、大佐は部隊長を自分のところに呼んで、協力に感謝し特別な名誉として、大佐が自分の部隊の最後の指令をする：「解散！」

19時に伝統的な方法で長い踊りを行う。それは王の部隊の士官と3つの旗を持つ矛グループが先頭に行進する。可能であれば射撃ホール前の芝生の上でおこなう。この時に鼓手長は昔から伝わる同胞団の熊毛帽子を被っている。

長い踊り（Langer Tanz）のための指令は次のとおりである。

「長い踊りのため、静立」→「姿勢整えよ」→「目線を正面に」→「銃を肩に」→「列毎に右を向け」→「長い踊り行進」。

踊りから帰った後の指令は次のとおりである。「ロングダンス停止」→「銃下ろせ」→「直れ」

短い休憩の後再び：「ロングダンス停止」→「銃を肩に」→「旗を戻し前へ」→「注目」→「銃を提示」→「旗行進」

20 ケーゲル（Kegel）、タンペーテ（Tampete）、エクセーズ（Eccesaise）はウェストファーレン地方にゲーセケ市しか残っていない伝統的な社交ダンスである。Eccesaise は18世紀フランスなどに流行ったスコットランド風の踊りである。

音楽隊は旗行進の時のようにヘレン行進曲を演奏する。まず、旗手士官候補生が旗を持って帰る。この熊毛皮の帽子をかぶった鼓手長はガチョウ行進で会場を立ち去り、次にターキッシュ・クレセントの演奏者は踊りの会場から立ち去る。最後に王の盾を運ぶ会場担当の少佐が立ち去る。

その後、次のような指令を出す。「銃を肩に」→「銃を下ろせ」→「移動開始」
射撃練習場で「長い踊り」の終了後、同胞団の旗と記章は安全に保管される。

廷臣の食事は19時から、20時から一般的なダンスパーティーが開始する。「ケーゲル」と「タンペーテ」、「エクセーズ」を日曜日と同様に配分する。約22時頃に、士官たちはホール前に集まり、王にセレナーデで特別な表敬を捧げる。

6. 年中行事

回想の日（Einkehrtag）

四旬節の第2日曜日には、朝のミサ後、同胞団に宗教的な講義を開催する。

賞賛日行列（Lobetagsprozession）²¹

毎年恒例の賞賛日の行列に大尉または中尉を率いて士官4人、旗2流、矛を持つ射手16人の中隊が出向する。彼らは制服を身にまとい、白い手袋をはめる。集合場所は、参事会教会である。

行列の時に、二つの旗は聖体の前隣に位置し、その後士官と矛持ちが歩く。行進は静かに規律よく行わなければならない。行列では、幕僚と部隊員は都市の代表者（市長と議員）の真後ろに次ぐ。

行列の制服を着た参加者は、鼓団（や町の音楽隊）により前に決まった場所で行う懇親会に招かれる。出動した射手は軽食に招かれる。幕僚と他の部隊の代表者は参加することが望ましい。この際に少人数の音楽隊が参加することが望ましい。

コーパスクリスティ（聖体祭）行列（Fronleichnamsprozession）

コーパスクリスティ（聖体祭）行列に賞賛日の行列と同様の構成の中隊は聖体を守るために出動する。行列のあと、出動した射手たちは軽食会に集まる。（賞賛日順番と同様）町の教会に集合する。

マリア行列（Marienprozession）

集合は聖マリア教会である。この行列に旗の中隊と士官2人（西部隊あるいは東部隊）が付き添う。

21 復活祭の3週間後の日曜日に30年戦争の占領の免れたことを感謝して、行列が行う。

聖シリアクス祭

教会の守護聖人の記念日に参事会教会で厳粛なミサを行い、シリアクス祠が外におかれる。近年行列をおこなっていないので、ミサには旗一本をもって理事会または幕僚の士官2人が参加する。(今後再び行列をおこなう場合、幕僚の士官8人が聖体に付き添う。)

メモリアルデー (Volkstrauertag)

メモリアルデーは交互にゲーセケ市の中心部やその近隣地域で行う。同胞団は、制服を着た2人の士官と1つの旗を派遣する。

市の境を歩く (Schnadgang)

郷土協会 (Heimatverein) 開催で、9月の最初の週末にゲーセケ市の旧市街の地区境界の伝統的な巡回を開催する。これは所有者が所有権を表す行為であったので、参加者が戻る時、射手の一団は集合場所に約17時頃に出向し(士官2人と旗1本)音楽隊とともに迎える。この代表団は、参加者をマルクト広場に連れていく。

同胞の家族の祭り (Familienfest)

伝統的には、毎年、8月下旬(通常は市の祭りの前に)に家族パーティーが開催され、若者から高齢者までが招待される。順番を交代して一つの部隊地区が開催の主催を行う。開催する部隊地区の部隊員だけでなく多くの人々が参加するのは非常に喜ばしい。部隊対抗のコンテストが開催されることは伝統になってきている。また、伝統的に子どもの王・女王が決定される。

大隊のコンテスト (Batallionswettkämpfe)

毎年秋からの的の王の決定戦まで同胞団の射撃スタッフで部隊と幕僚の試合を行う。それぞれの受賞者は射撃祭の土曜日にマルクト広場で表彰される。

他の年中行事

毎年遅くとも射撃祭後の最初の集会(反省会)の際に、王と女王は市外への出動を決定する。それは9月のリップシュタット郡の郡射撃祭や歴史的なドイツ射撃同胞団連盟の連盟射撃祭の開催などである。他の市外出動は何らかの記念行事として行う。このような特別な出動がある場合、王と女王、廷臣は喜んでいる。

行進順序：銃の代わりに矛を持っていく、矛を持ってなくてもすべての射手が白い手袋を着用する。

7. 部隊地区の夜 (Hofenabend)

伝統的に、各部隊地区で秋以降に集いが開催される。東部隊は悔い改めの日²²頃、西部隊

はクリスマスの前（アドベントの最初の日曜日の前）、北部隊は新年の1月の第1または第2土曜日。各部隊のすべてのメンバーが親睦を深める夕方を過ごす。部隊地区の幹部がこの集いを主催する。そこで食されるものは、伝統的に決まっている。大量のグラシュとジャガイモとキュウリが恒例である。部隊のすべてのメンバーのほかに、他の部隊の大尉と中尉ともう1名のメンバーだけでなく、幕僚や名誉士官が招待される。特別ゲストは陛下たちとプレーセスであり、プレーセスは始めの祈りを行う。

8. 聖セバスティアヌスの日（Sebastianstag）

1月20日に、聖セバスティアヌスの記念日が教会で祝われる。同胞団の守護聖人に毎年厳粛なミサを捧げる。すべての兄弟とその家族がこのミサに招待される。

ミサを行うプレーセスの前に、王と第1射手師が同胞団のしきたりと規約を忠実に守るよう誓い、他の射手たちはその誓いを繰り返す。その時には旗が下げられている²³。

すべての士官と理事は制服を身にまとして、高帽子をかぶり、手袋をはめ、剣は持たずに教会に来る。ミサの前には全員に薔薇1本が配布される。士官候補生は、高帽子に楡の葉が付いていない場合は革手袋をはめる。聖書の朗読によって大佐、中佐は亡くなった人々のための祈りを捧げる。前年度に亡くなった射撃同胞団の団員の名前が読み上げられ、すべての親戚や友人であった故人を偲ぶ。

9. 射手の舞踏会（Schützenball）

誓約の更新の聖セバスティアヌスの祝日には射撃ミサの後に制服を身にまとった士官と射手が参加する舞踏会が催される。舞踏会には士官と射手が制服姿で参加している時がある。20時半に、両陛下や廷臣たちがボールルームに入場する。王に敬意を表すためにこの日の夕方に故郷のダンス「タンペーテ」と「ケーゲル」、「エクセーズ」が踊られる。

22 Buß- und Betttag は11月末のプロテスタント教の祝日である。

23 誓約の更新：誓約の更新は、説教の直後に行う。制服を身にまとった理事たちが、半円で祭壇の回りに並ぶ。

使徒信条：

「私は神を信じ、全能の父、天と地の創造者で、イエス・キリストは、神のひとり子、私たちの主。聖霊によってみごもり処女マリアから生まれた、イエス・キリストはポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架にかけられ、死んで葬られ、彼は死の国に降り、三日目に彼は死から再び上昇し、天に昇って、彼は全能の父である神の右に座し、そこから彼は、生者と死者を裁くために来られる。私は、聖霊を信じ、聖なるカトリック教会、聖人の共同体、罪の赦し、死の復活と永遠の命。アーメン。」

司祭は射手の方を向く。王と第1射手師は真ん中祭壇の前に立って、右手を下げた旗に乗せ、短い段落で言って、他の理事たちと射手が繰り返し誓う：「私は神の前に私の約束を更新するクリスチャン生活を送る忠実に同胞団の規則に従うこと。信仰、道徳、相互の助け合い特に私たちの街のゲーセケの中で神の助けと私たちの守護聖人の助けでそれを全力で守ることを誓う。」

10. 会 合

会則で決まった手続きである理事会と幕僚の選出（3年毎）でおこなわれる総会で射手の一年は正式に終了する。議題は会則によって設定される。

選挙が行われない年に、市や同胞団の歴史についての講演会を行うという良い伝統がある。このテーマは、郷土協会と射手の兄弟が共に決める。

11. 葬儀の順序

葬儀は悲しい出来事だとしても、埋葬方法に適切な対応しなければならない。1974年以来、あまり変化していない。最近では火葬が増え、埋葬を行わないことだけは注意点である。

1. 現役の射手がなくなった場合

旗、旗手、二人の士官、檜の葉なし、薔薇なし、黒いズボン

2. 20年間理事会に入っていた射手がなくなった場合

旗、旗手、二人の士官、他の2人の士官が持つ追悼の輪、檜の葉なし、薔薇なし、黒いズボン

3. 現役の士官、部隊地区長、名誉士官がなくなった場合

旗と輪、できれば大隊のすべての士官、部隊の大尉による墓または教会でのスピーチ、士官が棺を運ぶかどうかについて遺族への問い合わせ、檜の葉なし、薔薇なし、白いズボン、士官は剣を持つ

4. 現役の幕僚、名誉大佐、幕僚の名誉士官がなくなった場合、上の第3項に書かれた法式と同様、ただし遺族と相談したうえ、大佐によるスピーチ

火葬の場合：

1と2の場合、墓地の礼拝堂で、セレモニー後、棺の前で敬礼を行う。棺を火葬するための車両から搬出されている場合、敬意を示すために、車まで共に行き、そこで最後の挨拶をする。その場で花輪を捧げていいか否かは遺族と相談する。3と4の場合、士官たちは両側に並ぶ。棺は、その後、士官によって車に運ばれる。

スピーチは墓地の礼拝堂または骨壺の埋葬のときに行う。その都度行なわれるレクイエム（追悼ミサ）にも参加することが重要である。

注：多くの場合、まだ埋葬前の墓でのスピーチは、遺族が希望しない。遺族が同胞団からの慈しみの言葉を望めば、教会で別れの言葉を祝福の前に述べるのが好まれる。

締め言葉：

この射手規約は、序で約束した通り、射手に係わるいくつかのテーマを少し詳しくまとめている。我々が忘れてしまった物事がある場合、これを修正できるように、情報を寄せてください。

このような古い伝統を持つ同胞団ですべてを規制することはできず、またする必要もない。

我々の聖セバスティアヌス射撃同胞団に3回「堰あげ - ホリド - オストリュ」を唱える²⁴。

ゲーセケ市2007年1月29日

フリードリヒ・ベルグマン博士

大佐兼第1同胞師

以上はゲーセケ市の聖セバスティアヌス射撃同胞団の会則と射手規定である。ドイツの射撃協会と射撃祭の運営がよく分かる資料として紹介した。この資料をもってある射撃団の現状と祭りの運営を紹介し、他の射撃団との比較対照に役立つことを望む。それと比較して歴史的な変化が調べる事が可能になる。様々な射撃団の各時代の会則は入手しやすく、時代の変化とともに射撃団がどのように変化したかを示すことが可能になる。この研究の第一歩として、現在の射撃団を紹介した。

24 三部隊地区の喊声である。